

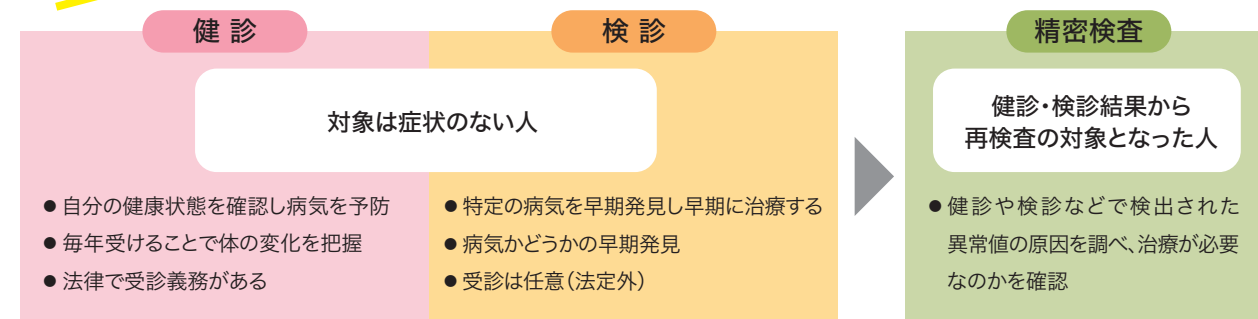
正しく知ろう！ がん検診

がんは、生涯で2人に1人が罹患(りかん)し、3人に1人の死亡原因となる病気ですが、医学の進歩により治る病気になってきています。

ダイキン健保では、皆さんの生涯にわたる安心を支えるために、独自の取り組みとして、がん検診を実施しています。がん検診は、がんの早期発見・早期治療につながる一方で、受診によるデメリットもあります。皆さんが正しい知識を持って受診していただくことが大切です。



知っておこう 健診・検診・検査？ それぞれ受診目的が異なります



ダイキン健保の健診事業 ダイキン健保の被保険者の皆さま向けの内容です

事業主が実施する「一般健診」と「がん検診」について、ダイキン健保は「がん検診」「眼底検査」の費用を負担しています。

種類	従業員の一般健診 (定期健診)	がん検診
対象者	従業員全員	ダイキン健保の 被保険者本人
健診費用負担	事業主(会社)が負担	健保組合が負担

● 被扶養者(ご家族)の皆さまには家族健診のご案内で別途お知らせいたします。
受診できる健診はホームページでも紹介しています。

一般健診とがん検診の検査項目の詳細は
こちらからご確認ください



成人病健診の中にがん検診が含まれています

がん検診については
右ページをご覧ください

● 毎年ダイキン健保が支出しているがん検診の費用は約2億円。
すべての保健事業費のおおよそ 1/2 となる金額です。

ダイキン健保では 4種類のがん検診を実施しています

ダイキン健保のがん検診の実施基準

ダイキン健保のがん検診の基準は、厚生労働省の基準を参考に、会社の産業医等の医療専門職と「健康推進事業連絡会議」で検討した上で、健保組合会で決定されたものです。受診は任意です。

2020年度から
国の実施基準の見直しに伴い
ダイキン健保も基準を
変更しています

検 査 基 準			備 考
胃がん	検査内容	胃レントゲン検査 ※胃内視鏡検査への変更可	厚労省基準に同じ 当面30歳以上希望者の受診も可 ※一部の事業所では、産業医管理の下で胃がんリスク検査を実施
	検査対象	50歳以上 ※30歳以上の希望者は受診可	
大腸がん	検査内容	便潜血検査(2回法)	厚労省基準に同じ 当面30歳以上希望者の受診も可
	検査対象	40歳以上 ※30歳以上の希望者は受診可	
子宮頸がん	検査内容	子宮粘膜細胞診	厚労省基準に同じ
	検査対象	20歳以上の女性	
乳がん	検査内容	マンモグラフィー+触診	厚労省基準に加え、30歳～39歳の 超音波検査と触診を実施
	検査対象	40歳以上の女性 ※30歳～39歳の女性 超音波検査+触診	

●がん検診の受診方法 被保険者：会社の定期健診時に受診(会社より対象者へ案内)
任意継続者・被扶養者：お近くの健診機関で受診(健保より案内書を送付)

50歳以上の方必見！

「がん検診」よくある質問 その1



胃がん検査は
胃カメラとバリウムの
どちらを受けたら
いいですか？

それぞれの検査の
メリットとデメリットを
知って選んでください。



ダイキン工業株式会社
淀川製作所産業医
金山 周次先生

11-12ページでも
金山先生に
がん検診の質問に
答えていただい
ています。

胃内視鏡(胃カメラ)検査

- | | |
|-------|---|
| メリット | ● 口(もしくは鼻)から内視鏡を入れて医師が直接目で観察する検査のため、粘膜の微細な変化を見逃しにくい。
● 粘膜に気になる部分があれば、その場でその部分の組織を取り、病理検査に回すことができる。 |
| デメリット | ● 検査に苦痛を伴う。
● 嘔吐反射が強い(えずきやすい)人は、カメラを飲み込むときや検査の間中、嘔吐感が続くこともある。 |

胃レントゲン(バリウム)検査

- | | |
|-------|--|
| メリット | ● 食道や胃の動き、食べ物の通り方、胃の全体の形がよくわかる。 |
| デメリット | ● 検査の精度が内視鏡より劣る。
● 飲んだバリウムの排泄など、検査後に自己処置がある。
● 少なからず放射線被ばくをする。 |

正しく知ろう!がん検診

30歳代のギモン!

「がん検診」よくある質問 その2



30歳代です。
若い人は、がんが進行しやすいのだから、胃がん検査も大腸がん検査も受けた方がいいですよね?

「がん検診」の最大のメリットは、がんによる死亡が減ることです。
がん検診にはメリットとデメリットがあるため、総合的にメリットが上まわると判断できる方は受診してください。

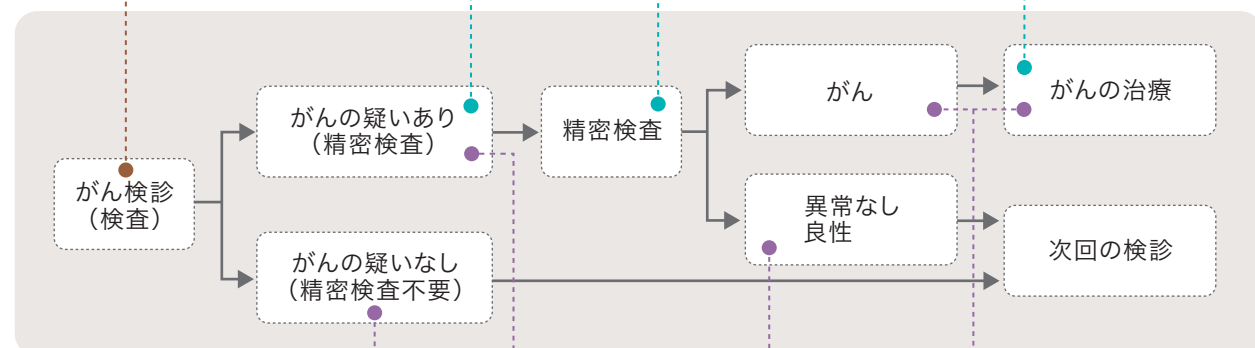


がん検診の流れから知る がん検診のメリットとデメリット

検診は症状のない人が対象です。症状がある場合は医療機関を受診してください。

検診は自覚症状がない時点で行われることから、がんが進行していない状態で発見することができます。

メリット 早期発見、早期治療でその多くが治ります



デメリット 検査の精度は100%ではありません

がんが見つけない場所にあたり、見つけにくい形をしていたりすると、発見できないことがあります(偽陰性)。

検診でがんの疑いがあると判定されて精密検査を行っても、がんが発見されないことがあります(偽陽性)。

生命を脅かさないがんが発見されることがあります(過剰診断)。

ひとこと

検診でがんと判断されなくても、毎年検診を受け続けることにより、がんを発見できる確率は高まります。がん検診は単発の受診ではなく、適切な間隔で受け続ける必要があります。

ひとこと

精密検査のための身体的・経済的な負担だけでなく、がんではないと判断されるまで精神的な負担も強いられます。

ひとこと

がんの中には、消えたり、とどまったりするものがあります。現在の医療では、どのようながんが「進行がん」となるのかわかっていません。このようながんにも通常のがんと同じような検査や治療が行われるケースがあります。



男女・年齢別がん罹患率から知る がん検診のメリットとデメリット

がん検診は、右図のとおり、国で推奨されている対象年齢で、年1回の間隔で受診することが望ましいです[詳しくは「ダイキン健保のがん検診の実施基準」(10ページ参照)]。

これらの年齢と受診間隔は、検診によるメリット(がん死亡率の減少効果)が確認され、検診によるデメリット(偽陰性・偽陽性・過剰診断)が最も小さくなることが考慮されています。対象年齢より若い年齢で検診を受ける場合には、利益よりも不利益が大きくなることを理解する必要があります。

検査基準年齢

胃がん 50歳以上

大腸がん 40歳以上

子宮頸がん 20歳以上の女性

乳がん 40歳以上の女性

健康診断をしっかりと受けて、がん検診の受診は検討しよう。

対象年齢になったから、早期発見するため、年1回のがん検診は受け続けよう。

40歳になるまでは、女性向けがん検診のみにしようかしら。

4種類すべて受けた方がいいわね。いろいろと不安だから、誰かに相談したいわ。



30歳



50歳



30歳

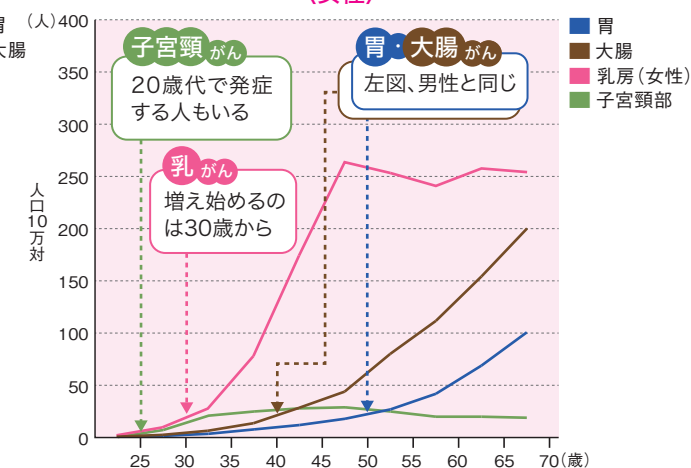
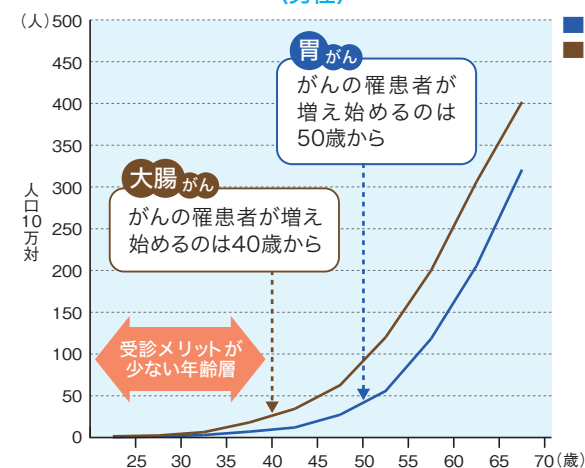


50歳

〈男性〉

男女・年齢別がん罹患率

〈女性〉



※グラフはがん情報サービス「がん登録・統計」罹患データ(2015年)より作成

もっと教えて!先生

がん検診は、自分の年齢・性別から適切な時期に定期的に受診しましょう

お答えしたとおり、がん検診にはメリットとデメリットがあります。各部位ごとに定められた年齢基準は、おおそ、がん検診のメリットがデメリットを上回る年齢になっています。「受診案内が届いたから」という理由だけで、基準年齢より若い方が、毎年受診することはデメリットの方が大きいので、お勧めしません。家族にがんの人がいるなど不安な方は、私たち専属産業医や、かかりつけ医に相談してから、受診するかを決めてもいいでしょう。皆さんが健康で元気に過ごせるようにダイキン健保と一緒にサポートしていきます。



教えていただいたのは...

金山 周次 先生

〈プロフィール〉

ダイキン工業株式会社

淀川製作所淀川健康管理室 専属産業医

消化器病専門医・消化器内視鏡専門医